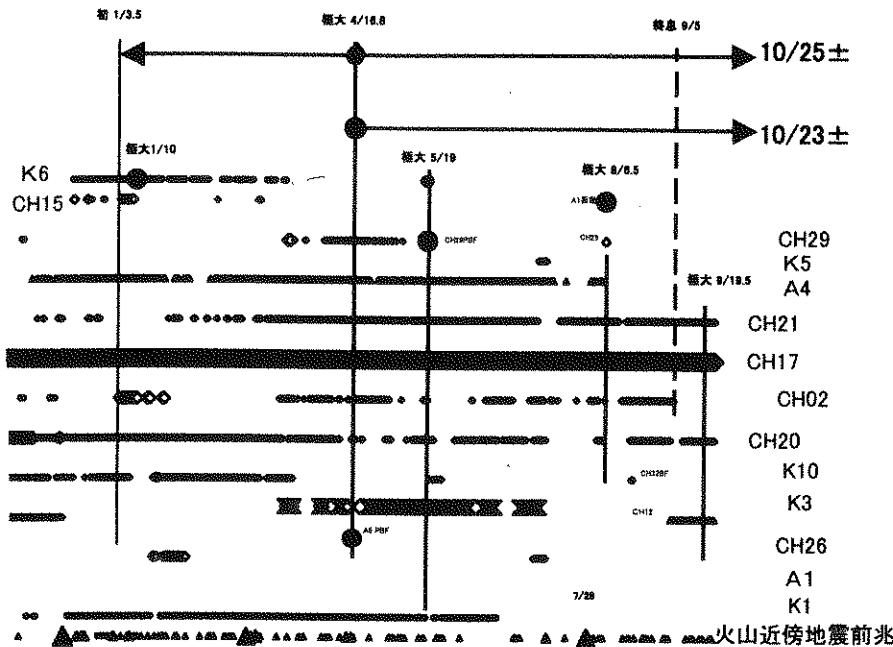


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続特殊前兆続報 9/27±発生否定 現状の前兆関係認識は誤り  
早い場合 10/24±時期も示唆されるが前兆終息観測後推定



現在までの前兆関係認識からは、9/23±に前兆終息が観測された場合は、9/27±発生の可能性が示唆されることを報告致しました。しかし、本日9/23午後現在、八ヶ岳のCH17, CH20, CH21の3観測装置の特異前兆が継続出現していることが観測されています。本日までの前兆は左図のとおりです。本日前兆が継続出現していることから、明らかに現在までの前兆関係の認識が間違っていることが明白で、9/27±発生は否定されます。

左図の最近の前兆の動向の関係をあらゆる組合せで検討してみました。確実と言える前兆初現～極大又は極大～終息の関係が見えませんでした。左に記した10/24±の可能性もCH02の初現・終息に対し秋田観測点A6のPBF極大4/16.8の関係から示唆される時期を示したものです。今後数ヶ月前兆が継続することは非常に考えにくい状況ですが、前兆の終息変化を観測した後、発生時期を推定計算したいと考えます。前兆関係認識が間違っておりまして深くお詫び申し上げます。

当初は近畿圏から中部の可能性が示唆されましたが、その後の観測で、前兆検知領域経験式のR値が修正され、より東側でも調和することとなった。さらに最近観測された特異前兆が勝浦局で出現している可能性が高いことが判明し、以前の続報に記したとおり現在の形となりました。下図は推定領域内及び周辺の火山を示します。

- ◆推定領域: 下図 点線含む太線領域内=大枠推定  
斜線領域内=可能性が考えやすい領域  
(火山近傍領域の可能性が強く示唆される)
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5 (震源浅い陸域地殻地震)
- ◆推定時期: 前兆終息後計算予定
- ◇推定発生時刻: 午前09時±1 又は夕刻06時±3

